



4年1組 最上やよいさん

光

※「曲がり」の形や「はね」の方向に気を付けて書きました。



1年 小川五月さん



『はじめてのなまえ』

※まだならつていないひらがなも、ていねいに書きました。

あつまれ みんなの力作



5年1組 鈴木博之くん

花

※「花」の最後のはねが難しかったが、よく書けたと思います。



2年1組 川野ゆかさん

六	五	四	三	二	一
し	わ	ろ	た	ご	つ
ち	で	け	い	ま	を
め	も	て	して	ま	を
ん	ろ	も	も	ん	ん
ろ	う	よ	う	か	

※えんぴつのもちかたに気を付けて、正しいしきいでいねいに書きました。



6年1組 中曽根さつきさん

夢

※止めるところやはりつところに気をつけて書きました。



3年1組 伊藤 勇くん

三

※止めるところを気をつけて書きました。



椎名 静子(二又)  
子の便りを受けて直ぐ読む初つばめ

子を思う夜の鶴。離れ住む子を案ずる親の心情が、初燕の季語で更に深められた。

布施 和代(二又)  
茫々と田水ひかれり蛙の夜

見渡す植田は淡い月の光りに模糊と広がり、蛙だけが我が世の春を奏でている。

川島 通則(二又)  
一日は植田の水見に始まり

植田の管理は農耕の重要な仕事の一つ。巧拙は措き。耕作者ならではの作である。

布施喜美雄(二又)  
蛙鳴く情心かなぐり捨てにけり

大谷 武彦(木戸)  
大蛙夜目に芥とまがいけり

秋山 一泉(栢田)  
夕より風は北なり初蛙

土屋 義昭(虫生)  
豆腐屋の夕蛙田を喇叭の音

短評 椎名しげる

評者吟  
湯上りの肌吹かせおり遠蛙